

7月中旬から8月下旬にかけて、カタクリ保全の一助とするため、土壌の乾燥防止を目的とした対策を実施した。

1 短期的な取組

（1）雨水浸透施設の改良（写真1）

【内容】

既存の雨水浸透施設は、公園内の段丘面の肩に設置されており、段丘面に降った雨水を地中の深い層に浸透させていた。これを、カタクリが生育する斜面の上側の地表に雨水が直接浸透するよう、土のうを用いて構造を改良した。

【期待される効果】

雨水をカタクリの生育地へ導くことで、生育地の土壌の乾燥化の進行を抑制する。

（2）蒸散抑制を目的とした枝落とし（写真2）

【内容】

葉張り、健全度、および周囲の樹林の状況を考慮し、斜面上部の樹木4本を選定し、枝落としを実施した。

林床植物を保全するため、保護用マットを敷設し、吊るし切りによる枝落としを実施した。

【期待される効果】

高木による土壌水分の吸上を抑制し、土壌の乾燥化を低減する。
林床への日照が増加し、実生の生長しやすい環境を創出する。

（3）カントリーヘッジの試行（写真3）

【内容】

発生材を活用し、カタクリ保全エリア内に生き物の生息環境となるカントリーヘッジを設置した。

【期待される効果】

花粉を媒介する昆虫を含む多様な生き物の生息環境が創出され、カタクリの訪花昆虫の増加が期待される。

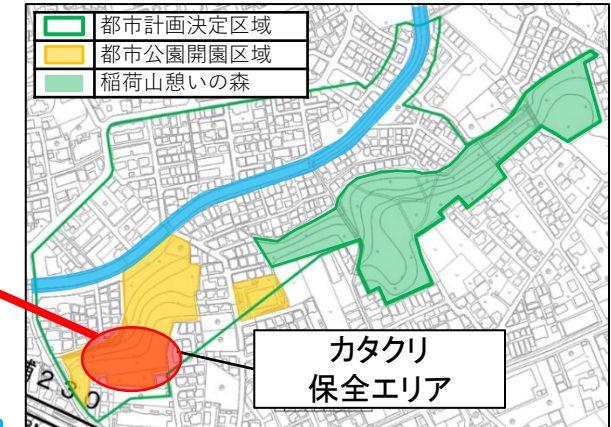
2 今後の取組

（1）短・中期的な取組

- ・調査により自然環境の変化を把握し、枝落としなどの施策効果を検証する。
- ・効果検証の結果を踏まえ、枝落としの継続実施、あるいは代替となる改善策について検討する。
- ・カタクリ保全エリア前面の道路等から雨水を公園内に導水・浸透させ、エリア内の土壌乾燥化を防止するための施設整備を検討する。

（2）長期的な取組

- ・活動団体との協働による苗木の育成やせん定枝などの資源循環を実現するため、その実施手法を検討する。



稲荷山公園 都市計画区域全体図



写真1 雨水浸透施設（施工後）



写真2 枝落とし（施工後）



写真3 カントリーヘッジ